

平成 28 年 1 月 8 日
四国電力株式会社

伊方発電所 3 号機 放水ピット残留塩素濃度の一時的な上昇について

定期検査中の伊方発電所 3 号機（加圧水型、定格電気出力 89 万キロワット）の中央制御室において、本日 10 時 10 分、放水ピット内の残留塩素濃度の上昇を示す信号が発信したため、分析したところ、残留塩素濃度が基準値（0.02 ppm）を超えていたことを確認しました。

このため、当時行っていた 2 次系海水の水抜き作業を停止したところ、残留塩素濃度は低下し、10 時 30 分頃以降、0.02 ppm 未満となっております。

確認の結果、放水ピットにおける残留塩素濃度が基準値を超えたのは 20 分程度であり、この間の最大残留塩素濃度は 0.029 ppm でした。

その後、発電所前面海域（8 箇所）において海水をサンプリングして測定した結果、残留塩素は検出されませんでした。

現在、原因について調査中です。

本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。

放水ピット

発電所で使用した海水を海に放出する際に使用するピット

以上